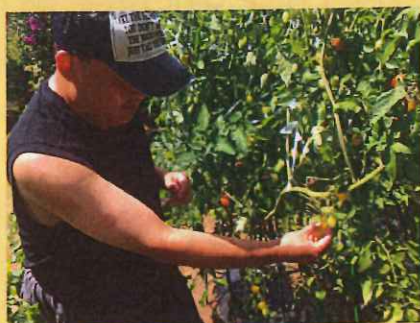


NO. 62(令和3年9月15日発行)



社会福祉法人  
**愛の鈴**  
AINO-SUZU

# 愛の鈴通信



たくさん採れました！ 

ケアホームの裏庭畑にて

## 目次

- ・理事長のことば
- ・町田おかしの家 便り
- ・ケアホーム愛の鈴 便り
- ・法人本部報告
- ・町田おかしの家 商品ラインナップ
- ・アクセスマップ
- ・人事異動、その他

編集・制作：社会福祉法人 愛の鈴

## 理事長のことば



社会福祉法人愛の鈴  
理事長 植草 三樹男

### 脳血管障害 麻生リハビリ病院にて

町田市民病院で血管溶解の点滴をして二週間ほどしてリハビリ専門の病院に転院しました。

町田市民病院で簡単なリハビリ治療をしてかなり回復していたので一ヶ月位で元通りに慣れるのではないかと退院を期待していましたが、そう簡単ではなかった。担当医師には二ヶ月はかかると言われました。

翌日から一日三時間休日無しのスケジュールでリハビリが始まりました。午前45分二回、午後45分二回、右上半身、マッサージ、体操と足の動き、歩行訓練などが主なメニューでした。

足担当のYさんは礼儀正しく丁寧でソフトな感じの青年でしたが、かなり苦しい所まで追い込むタイプで、私はかなり頑張りました。おかげで1.5km位休みなしで歩けるようになりました。

一方、右手担当「生活リハビリ」のFさんは優しく、無理をさせず、正確に施術してくれる若い、生真面目な女性でした。

驚いたことに二人とも患者である私の不具合の箇所を全部知っていました。又、私がつぶやいたことさえも記録しているようでした。私は二人に安心して任すことができました。全幅の信頼をもつことができました。

二人の使う言葉は「如何ですか、元気ですか、大丈夫ですよ、良く出来ますね、良くなって嬉しい、ありがとう」でした。

リハビリ室、病院の中にもこれらの言葉が溢れていました。

250人のスタッフ全て素敵なお人たちのように見えました。

今までこんなに楽しい、ありがたい入院生活は初めての経験でした。

神様に感謝の毎日でした。日本の未来も素晴らしいものになりそうです。

令和3年9月5日

## 町田おかしの家 便り

### 夏ゆず打ち上げ (8月20日)



防災講習と大掃除を行いました。



6～8月と続いた「夏ゆず」繁忙期作業が終わり、夏休みを前に打ち上げ会を開催しました。

会場では感染症対策を図り、テーブルにはハンバーガー・焼きたてパンが並び、デザートにはメロン、パフェ等をいただき、皆さん大満足のようでした。利用者みなさんは夏の暑さの中で作業をやり遂げた達成感を味わいながら、夏休みを前に充実感のあるひとときとなりました。



吉村孝博様からメロン、小野恭子様よりアイスキャンディー、利用者のご家族からリンゴの差し入れを頂きました。  
ありがとうございました。

### レクリエーション 9月3日

藍の葉を使って染めたふきんづくりをしました。藍の葉をふきんにテープで止め、ラップで保護して石や小槌でたたいて模様をつけていきます。利用者の皆さんからは楽しかったとの感想が多く挙がっていました。



藍の葉をそのまま使って染めました。

### 作業もがんばっています



6～8月は恒例の夏ゆずを頑張りました。



基板作業も忙しくなっています。



9月はハロウィンおかしもはじまりました。

### 誕生日のお祝い

8月  
NOさん  
RYさん  
RKさん  
KNさん



9月  
RYさん  
HSさん



# ケアホーム 愛の鈴



ケアホームの庭にて  
野菜の収穫



ケアホームの裏庭で作っている野菜を収穫しました。ミニトマト・ナス・きゅうり・パプリカ・シシトウは特に豊作で、毎日食卓に並びました。収穫時は皆さん真剣な表情で野菜を採っています。



↓たこ焼き作り初挑戦の方もいましたが、皆さん上手に出来ていました。

たこ焼き  
作り



→8月はH・SさんとN・Oさんのお誕生日会を開催しました。  
お二人ともおめでとうございます！！

## H・Sさんお誕生日会



## N・Oさんお誕生日会



## 法人本部報告

### 「ご寄附受入状況報告」

(敬称略) (前回号から令和3年8月31日現在)

皆様からのご寄附は、法人及び事業所利用者のためにありがたく使用させていただきます。

#### <法人全体へのご寄附(法人運営資金として)>

- ・浅見源司郎
  - ・猪野塚睦子
  - ・衛藤喜代
  - ・久保田民子
  - ・田邊みよ子
  - ・森高登志夫
  - ・石井浩美
  - ・岩熊幸織
  - ・大川従道
  - ・齋藤謹也
  - ・祢津都子
  - ・横溝肖実
  - ・伊藤美保子
  - ・植草三樹男
  - ・大川道子
  - ・齋藤美智子
  - ・松岡浩子
  - ・猪野塚重
  - ・宇佐美より子
  - ・加藤武仁
  - ・須賀みど里
  - ・松島洋子
- ・宗教法人大和キリスト教会大和カルバリーチャペル 牧師 大川従道

#### <町田おかしの家へのご寄附(事業所運営資金として)>

- ・丹後美穂
- ・株式会社名晋電機
- ・小金井康次

#### <ケアホーム愛の鈴へのご寄附(事業所運営資金として)>

- ・猪野塚幸子

皆様の当法人及び事業所への温かな見守りとご支援、ご協力に感謝を申し上げます。

### 「理事会開催状況」

令和3年度 第3回理事会 令和3年8月30日 午後 開催  
議題：当法人及び事業所創設にあたっての経緯と想い

### 「法人への実地指導」

指導監査課の皆様のご配慮に感謝申し上げます。

令和3年9月13日 午後2時から5時

町田市地域福祉部指導監査課による実地指導が実施されました。  
実地検査は原則3年に1回実施され、法人及び経営する事業所を対象とした検査となりますが、今回はコロナ禍により、法人組織運営(理事会・評議員会・規程等)及び会計・資産管理を対象とし、感染症対策として検査時間短縮や検査前の資料提出等 指導監査課の方々に様々なご配慮をいただいた形での検査実施となりました。

正式な実地指導結果は後日となるので、次号にお知らせいたします。

# 町田おかしの家 ～商品ラインナップ～

< 2021年 秋 >



こちらから町田おかしの家  
ホームページの商品紹介に  
アクセスし、商品チラシと  
申込書がダウンロードでき  
ます。

人気のおかしシリーズ

人気商品

各種 1袋100円



揚げ煎 醤油



揚げ煎 アーモンド



揚げ煎 塩



揚げ煎 固粒



揚げ煎 甘辛

## 大好評のおやつ



プチあんじゅ 100円



こいそ豆 100円

おかき・こいそ豆はご贈答用  
に箱・袋詰めを承ります。ご  
希望に応じてのしをお付け  
します。



2000円  
18袋入



600円  
5袋入



季節限定商品  
(10～5月頃)  
チョコラスク  
120円  
(3枚入)

## こだわりの逸品

### 憩いの味わい

おかきのおともに



煎茶  
850円



粉末緑茶  
700円



上煎茶  
1000円



特等 日高昆布  
800円



有明産やきのり  
400円

※やきのりは箱詰め承ります。  
(3帖・5帖入り、別途100円)

## アクセスマップ



### 就労継続支援B型 町田おかしの家

〒194-0035

東京都町田市忠生2-7-9

電話042-792-9773 FAX042-792-9767

E-mail okashinoie@ia2.itkeeper.ne.jp

小田急線・JR横浜線 町田駅から 神奈中バス 小山田桜台行  
町田工業高校前 バス停下車 徒歩10分



### 共同生活援助 ケアホーム愛の鈴

〒194-0038

東京都町田市根岸2-28-14

電話042-794-4120・4121 FAX042-794-4122

E-mail care.home@aino-suzu.jp

小田急線・JR横浜線 町田駅から 神奈中バス 野津田車庫前行  
・小山田行・橋本駅北口行等 下根岸 バス停下車 徒歩5分



愛の鈴通信を読んだご感想等をお聞かせください。

※ご感想等ございましたら以下にご記入の上でFAX、もしくは愛の鈴ウェブサイトのお問い合わせフォームなどからお送りください。今後の参考とさせていただきます。

愛の鈴お問合せフォーム：<http://aino-suzu.jp/publics/index/3/>

FAX番号 042-792-9767 (町田おかしの家)  
042-794-4122 (ケアホーム愛の鈴) までお送りください。



## 人事異動

- ・任命：令和3年7月 1日付 町田おかしの家 生活支援員 小原 泉 (常勤)
- ・任命：令和3年7月 1日付 町田おかしの家 生活支援員 友原 知子 (非常勤)
- ・任命：令和3年8月30日付 ケアホーム愛の鈴 世話人 櫻田 恵美 (非常勤)
- ・任命：令和3年9月 1日付 ケアホーム愛の鈴 世話人 古橋 綾子 (非常勤)

## 編集後記

新鮮で美味しいものを皆さんに召し上がって頂きたいという思いから、野菜収穫時期に実家の協力を得て、ケアホームの朝・夕に採れたての野菜を提供しています。実家は農業を生業としているので、毎日とはいきませんがこれまでに沢山の野菜をいただき、ケアホームの食卓に並びました。利用者の皆さんが口いっぱい頬張る様子は、見ていてとてもうれしくなりました。

真夏の太陽が照りつける中、Tシャツを汗びっしょりにして畑に向かう両親の背中、冬の寒い中、凍える指を温めながら葉野菜の枯葉を何千何万枚と取る姿を私はずっと見てきました。両親には今も感謝しかありません。そしてその手で育て上げた野菜は、何よりも贅沢で美味しいものだと思っています。

四代目の兄は、「自分はお客さんに満足してもらえる野菜を作りたい」と言っていました。私はその言葉を聴き、利用者さん達に満足してもらえる事業所をつくるために自分はこの法人・事業所にいることを再認識しました。

畑に向かう四つ離れた兄の背中、いつの間にか父と同じになっていました。(小金井)